

令和元年度 第2回石狩市民図書館協議会の会議 議事録

令和元年8月22日(木)午後3時より午後4時35分

石狩市民図書館 視聴覚ホール

出席者	石狩市民図書館協議会	会 長	青木 貞康
		副会長	木村 修一
		委 員	中川 聡子
			早川 久夫
			松谷 初代
			中村 友昭
			森地 亜矢子

石狩市民図書館	館 長	東 信也
	奉仕兼事業担当主査	岩城 千恵
	事業兼奉仕担当主査	品川 洋之
	事業兼奉仕担当主任	鈴木 美幸
	奉仕兼事業担当主事	吉岡 律子

傍聴者 2名

< 会議次第 >

1. 諮問・協議事項

(1) 図書館ビジョン・子どもの読書活動推進計画の策定について

2. 報告事項

(1) 図書館運営に対する市民からの要望について

3. その他

1. 開会

開会

青木会長：これより令和元年度第2回石狩市民図書館協議会を開催します。本日の欠席は、奥村委員、志藤委員、橋詰委員の3名です。

それでは、本日の予定についてお知らせいたします。

まず【協議事項】として「図書館ビジョン・子どもの読書活動推進計画の策定について」。この件につきましては、館長から諮問書をもらう予定です。

次に【報告事項】として「図書館運営に対する市民からの要望について」、図書館から報告があります。

閉会予定時刻は、午後5時を目処にしておりますので、円滑な協議を進めるためにご協力をお願いいたします。

図書館から送付されている資料は皆さんお持ちでしょうか。お持ちでない方がいらしたらお知らせください。

議事

青木会長：それでは、改めましてご挨拶申し上げます。

皆さんお忙しいところお集まりいただき有難うございます。

今回は、諮問の説明に少し時間を要するかと思いますが、皆さんからの活発なご意見を願いたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

では、図書館からお願いします。

東館長より青木会長へ「石狩市民図書館ビジョン及び、第4期石狩市子どもの読書活動推進計画の策定について」諮問書を手交

東館長：今年度は石狩市民図書館ビジョン並びに子どもの読書活動推進計画策定の年であり、ただいま会長へお渡しいたしました諮問書によって正式に石狩市民図書館協議会に対し策定にあたってご意見をいただくということになります。

策定にあたってのスケジュールは、会議次第1ページの表のとおりです。第1回石狩市民図書館協議会で申しあげましたとおり、12月に予定しているパブリックコメントまでに原案作成が必要となりますので、本日の協議会において素案に対するご意見をいただきたいと考えております。また、9月下旬には更に改定の意見を個別にファクシミリやメールなどによりお送り

いただき、意見集約したものを図書館として取り入れるかどうか判断し、10月をめどに原案を作成します。その案を各委員にてご確認いただいた上で青木会長に最終確認していただき、原案として確定したいと考えております。

諮問させていただきましたので、石狩市民図書館協議会の方針ということになります。最終的には、皆様から書面による確認を経た答申書を、会長から図書館長宛てにいただくという流れになります。

青木会長：図書館からの諮問がありました。また今後のスケジュールについて、案に沿って説明いただきましたが、ご質問はありませんか。

それでは、協議事項として（１）図書館ビジョン・子どもの読書活動推進計画の策定について、図書館より説明をお願いします。

東館長：資料１【これからの図書館がめざすもの 石狩市民図書館ビジョン】

この素案は前回までの委員の皆様からのご意見、市民図書館アンケート、図書館カフェなどの要望を踏まえ、議論の土台として提示させていただこうとするものであります。

現在の図書館ビジョンを、体裁をそのままに必要箇所を入れ替えているものとご理解ください。

全体構成は、これまでの石狩市民図書館ビジョンの考え方を大切に、項目や順序はそのままの記載となっています。

〔第１章 はじめに〕

「策定の趣旨」「対象とする期間」について記載しております。

〔第２章 構成〕

これは石狩市民図書館ビジョンと石狩市教育プランの構成を示す図になりますが、教育プランについては順次作成中のため変更の可能性があります。

〔第３章 石狩市民図書館がめざすもの〕

「市民の幸せのために」を基本に、石狩市教育プランの５つの柱について概要説明をしております。具体的な関連事業は、その柱ごとに次章に記載しております。

〔第４章 石狩市民図書館が今後５年間に重点的に取り組む施策〕

「１．子どもの学びを支援する」

成果指標のうち調整中となっている部分については、今回は全国学力学習状況調査の中で

「読書が好き」と回答した児童生徒の割合を示しており、この割合が年々下がっているという状況が課題となっていました。今年度は質問項目が変わり指標が取れなくなってしまったため、どのようにしていくか現在調整をしているところであります。

関連事業においては、資料2「子どもの読書活動推進計画」に詳しく記載しておりますので、「学校独自の取組」を追加記載したこと、「子どもの自発的な活動の支援」として事業の概要の中に「子ども司書など」という具体的な取組みを追加した二点のみお伝えします。

「2. 資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する」

前回協議会でも委員のみなさまからのご意見を頂いております、図書館PRのためのイベントの充実、そして利用者同士の交流を促すような事業の実施を新たに追加記載しております。この二点については、後ほど議論をいただきたいと存じます。

「3. 市民の誰もが利用できるような環境を整備する」

成果指標、貸出件数の目標値も、どのあたりを目標設定としたら良いのか悩ましいところであり、後ほどご相談させていただきたいと思っております。

「4. サービスを支える基盤を整備する」

「5. 利用者の期待に応える蔵書・情報源を構築する」

事業を記載しております。こちらの目標設定についても、現在検討しているところであります。

(資料2)【石狩市子どもの読書活動推進計画】

〔はじめに〕

1 子どもの読書活動の目的

2 計画策定の背景

2では、国・道の動きを記載しております。国において、『第三次基本計画期間における子どもの読書活動に関する状況を踏まえた国の分析では、中学生までの読書習慣の形成が不十分であること、高校生になり読書の関心度合いが低下していること、スマートフォンの普及等による子どもの読書環境への影響の可能性について言及しております。』とあります。

この分析を踏まえ、引き続き記載のとおり推進体制として市町村に対して『「学校・図書館・民間団体・民間企業等、様々な機関と連携し、各種取組を充実促進」するよう、(中略)計画についての見直しが求められております。』

北海道においては、第四次計画を策定し「北海道の全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう家庭・地域・学校の連携を進め、積極的に環境整備を図ります。」とし、発達段階に応じた具体的な取組を掲げております。

このような状況を踏まえ、市の計画を策定しようとするものであります。

3 計画の位置づけ

4 計画の期間は、令和2年度から6年度までを記載しております。

〔 子どもの読書活動推進のために 〕

1 子どもの読書活動ができる環境づくりを目指して

「すべての子どもがいつでもどこでも自主的に読書活動できる環境づくり」とし、基本的な考え方を記載しており、施策推進にあたっては【読書機会の提供と環境整備】、【発達段階に応じた取組】を視点としております。

4ページに計画全体の流れを図表しておりますが、前期計画を踏襲したもので変更の可能性がございます。

〔 第三期子ども読書活動推進計画の成果と課題 〕

1 乳児期における読書活動の推進

【取組状況】ブックスタート、おはなし会、そして前期計画において開始しました家読（うちどく）などを実施して参りました。また、子ども読書週間や各イベントを定期的に開催し、事業展開をしております。

【分析評価・方向性】ブックスタート事業は保護者に変好であり、おはなし会についても多くの子どもたちに参加をいただいている実績があります。また、平成29年度実施の市民図書館アンケートにおいて、子どもが本を読むようになった理由として、「小さい頃から読みきかせをしていたこと」が、もっとも多い回答であったことなどから、この取組みは継続をしていきたいと考えます。

2 小学生期における読書活動の推進

3 中学生・高校生期における読書活動の推進

（1）学校における読書活動の充実・子どもの読書活動に関する啓発の充実

【取組状況】小中学生向けの図書館の利用方法を伝える「図書館ガイダンス」や中高生職業体験の受け入れなどを通じ、本に親しむ機会の提供を図ったほか、読書週間での取組み、また調べる学習コンクールなど主体的な学習を支援しました。

【分析評価・方向性】事業の実施により児童生徒が本に親しむ機会は提供できたと思われます。一方、『「読書が好き」と回答があった子どもの割合』が減少傾向にあり、より一層学校および学校図書館と連携しながら取組みを進める必要があると考えています。

（2）学校図書館の蔵書の充実

市の学校図書館整備方針に基づき、図書館蔵書の整備を図って参りました。

学校図書館図書標準達成校数は表のとおり、小学校が9校、中学校は3校です。令和2年度には石狩本町八幡地区と厚田地区の学校統合により小学校が3校、中学校が1校減りますが、

令和6年度には全校が図書標準を達成できるよう引き続き取組みを進めます。

(3) 学校図書館の体制整備・市民図書館による支援

昨年度から、小学校に加え中学校への司書派遣も開始しています。図書館システムのオンラインネットワーク化については学校司書の配置校に実施しており、引き続き学校司書の配置・派遣を継続し、学校図書館が大いに活用できるよう取組みを進めます。

〔 子どもの読書活動推進のための取組 〕

1 乳幼児期における読書活動の推進

展開する施策・事業は記載のとおりです。

2 小学生期における読書活動の推進

網掛け部分「学校独自の取り組み」と「子どもの自発的な活動の支援」を拡充としております。

「学校独自の取り組み」は、朝読書をはじめ、おはなし会、ブックトークなど学校ごとの特色に応じた取組みを進めていることを踏まえ、施策事業を特記せず、事業の実施時期、内容について学校裁量で行えるよう記載の整理をしたものです。「子どもの自発的な活動の支援」については、国の方針として読書への関心を高める取組みが上げられており、具体例のひとつである子ども司書を盛り込んだものです。

3 中学生・高校生期における読書活動の推進

展開する施策・事業は、記載のとおり四つの施策に取組むこととしております。

〔 子どもの読書活動の基盤整備 〕

今後も「学校図書館の蔵書の充実」をはじめ、必要な事業を展開しようとするものです。

以上、これまでの計画を大切にしながら、現状にどのように対応していくのかというベースの案を説明いたしました。これから皆様にご意見をいただきながら、改めて参りたいと考えております。

青木会長：ここまで資料に沿って説明がありました、「石狩市民図書館ビジョン」「石狩市子どもの読書活動推進計画」について質疑を受けたいと思います。

なお、ご発言の際は、お名前を述べてから発言くださいますようお願いいたします。

なければ図書館からのテーマに沿って協議を進めたいと思います。

図書館から説明をお願いします。

東館長：次第 2 ページ、(1) 図書館ビジョン・子どもの読書活動推進計画の策定について」

(ア) 児童生徒の読書活動の推進について

先ほどの資料 2、6 ページの指標「読書が好きと回答した児童生徒の割合」ですが、ご覧のとおり減少傾向です。ただ、一人当たりの読書冊数としては増えているというデータがあるのが現状です。分析がもっとしっかりできれば対処方法も考えられると思いますので、皆様からご意見を頂きながら、子どもたちに求められている取組みを具体化していきたいと思います。

なお、平成 29 年に行った市民図書館アンケートで関連すると思われる、設問の「お子さんがよく本を読むようになったのは、なぜだと思われますか」に対して、「小さい頃から読み聞かせをしたから」の回答選択が一番多く、次いで「小さい頃から家に本を沢山置いていたから」など、幼い頃からの環境面の重要性を窺い知るという結果でした。

また、各学校においては、大小規模校それぞれの状況に応じた取組みをしており、ほとんどの学校が朝読書を行っているようです。本好きになるきっかけと、それを継続していくことが大事になると思いますので、アイデアなどありましたらご意見賜りたいと思います。

青木会長：読み聞かせなどは図書館でも行っておりますが、本に親しむ入り口としては小学校からとも思いますので、学校関係の委員から意見をいただきましょうか、早川委員いかがですか。

早川委員：自分も我が子に小さい頃から読み聞かせを実践してきましたが、やはり本好きな子に育っていると感じています。小学校でも低学年のうちから読書を習慣づけることは大事だと思いますし、それには先生方の意識も重要で、児童に対してもっと本を読む機会を増やそうという働きかけをしていくことは大切だと思います。ただ、学習要領に新たな項目が増えるなど、本に親しむ時間を学校で設けるといったことが難しいのも実状です。

しかし、本をどれだけ読んでいるかは、諸教科においても重要な、読解力に差が出ることも承知していますので、中休みなどを活用するなど、上手い手だてを考えていかなければならないと思います。学校図書館司書が本の紹介の仕方を工夫したり、図書館を使った学習方法に取組んだり、図書室や図書館に子どもたちが行ってみたくなるような色々な仕掛けを熱心に行っていることもあり、貸出し冊数を見ても本好きの児童は多くなったと感じます。秋の読書週間には先生方も含め、読み聞かせなどをしていますが、もっと関りを持って行くことが必要だと思います。

青木会長：そのほか、小学生だけでなく家庭内での読書活動推進としての意見を聞いてみまし

ようか。中川委員いかがでしょう。

中川委員：高校生も活字離れは進んでいると感じています。講習や部活動などもあって朝読書も難しい様子ですし、昼休みの図書室でも、気軽なコミックエッセイなどを手にしている生徒が多く見受けられます。小さい頃からの読書推進となると、習慣として図書館に行ってみたりすることは大きいと思いますし、そこに関しては、石狩市民図書館は理にかなったことを行っていると思います。先ほどお話のあった、先生からの読み聞かせも良いのですが、世代の近い中高生が、「自分たちが小学生の時にはこんな本を読んでいた」「こういう面白い本もあるよ」などといった、ブックトークのような場があると、関心を得られるのではないかと思います。

松谷委員：小さい頃は読み聞かせなどで本に親しむことがあると思いますが、ひとり読みへの移行時期、ちょうど小学3、4年生から高学年へ向かって色々な活動をしていくこの時期をどうしていくかが大事だと思います。市内全小学校へ学校司書が配置、派遣となったことは、沢山の良い本に出会う機会が増えると思いますので良いと思います。ぜひ中学校の学校司書も全校に配置、派遣をお願いしたいです。

また、図書館からは「子ども司書」の話、中川委員からは中高生からのブックトークに関してのお話がありましたが、例えば小中学校の卒業生を集めて『君たちにすすめたいこんな本』などといった、大人からではなく将来のモデルの近い世代からのブックトークは効果があるのではないかと思います。ひとり読みへの移行に関して、問題解決の一つの方法としていかがかと思います。

青木会長：この後も協議事項が続き時間の関係もありますので、他の委員の方からは次のテーマの後、引き続きご意見を頂くことといたします。

それでは、図書館からお願いします。

東館長：（イ）図書館 PR のためのイベントの充実について

関連事業

図書館の活動をもっと色々な方に知っていただくことは大事であり、そのためには現在行っているイベントのほかに、切り口を変えて広く展開してはどうかという意見から新規事業として掲げております。どのようなものが望ましいのかご意見を賜りたいと思います。

青木会長：些細なことでも構わないと思いますので、何かありませんでしょうか。

森地委員：来館者に、アンケートのような投書方式で情報を募ってみても面白いのではないのでしょうか。例えば、図書館の分類やコーナーごとに投書箱を設けて「面白い本はありましたか」や、「こんな本を借りました」として本を紹介してもらい、また、借りた本の感想を書いてもらっても良いのではないかと思います。

中村委員：入館者数は大学図書館でも減少しています。それがイコール貸し出し数の減少とは言えないのですが、図書館に来ることで新たな発見をしてもらえたら嬉しいですし、先生方にもできるだけ資料を使って自分で調べる方向に仕向けるような課題を出すなど協力してもらっています。石狩市民図書館は他の公共図書館よりイベント的なものは充実していると思いますが、例えば司書を目指している子どもたちに向けての職業体験など、小さなイベントを開催してみるのはいかがでしょうか。必ずしも便利なサービスばかりでなく、子どもたちに図書館へ足を向けてもらえるような、地域や学校などと連携した地道な取組みが良いのではないかと思います。

青木会長：子どもの読書を推進するための図書館としてのPRということなのですが、子どもを集めたいと考えるのか、それとも子どもにもっと本を読んでもらうことを目的としたPRを考えるのか。図書館をPRする方向性を絞って、分かりやすい形で具体的に考えていただければ良いかと思います。

松谷委員：可能であれば図書館独自のイベントだけではなく、例えば救急車両の展示や乗車体験と、それに関連する絵本の紹介、防災関係で防災担当者からの関連本の読み聞かせなど、外部とのコラボイベントを考えてみたら図書館職員の負担も少なく、楽しそうと関心を持つ方もいるのではないのでしょうか。

早川委員：学校で本の紹介をさせる授業を行った際、「私がすすめる〇〇」など本の帯を制作させたこともありましたが、例えばそういうものが図書館に並べられていたりすると、自分の作ったものが展示されていれば嬉しいだろうし、また他の人はどのように紹介しているのかなど、気になって図書館に足を運ぶ子もいるのではないのでしょうか。学校の授業としても繋げられれば良いと思います。

また、おはなし会の方々は面白い本を沢山ご存知なので、おはなしボランティアの方が特におすすめする本を持ってビブリオバトルをしても面白いと思いました。イベントをすることで人が集まり、それが楽しみでまた図書館に足を運ぶ人も増えると思うので、もっと膨らんでくれば、小学生や中学生同士でのビブリオバトルなど画策していき、本に親しむ頻度が増えると

良いと考えました。

青木会長：沢山のご意見、有難うございます。

テーマが続きますので、また後ほどご意見をいただきたいと思います。

東館長：（ウ）利用者同士の交流の場について

前回の協議会でご意見をいただいた中で「来館者の方同士が交流を持つ場を設けてみては」、という案を新規事業に揚げました。タイミングや切り口などのご意見を賜りながら、具体化していければと思います。

木村委員：先ほどの（イ）図書館PRのためのイベントの充実についてにも関わってくと思いますが、関心の切り口は各々バラバラなので、例えば子どもだけでなく大人に向けてストーリーテリングを実施してみるとか、他市の図書館で行っているような、利用者がおすすめする本を紹介するカードを作って、利用者が読み終えた感想などを書いてもらうなどといった企画も面白いと思います。

中川委員：小さな町では、図書館が用意したポイントカードに読んだ冊数がポイント加算され、そのポイントに応じて公共の古本市で古本と交換できるといった企画をしているところもあるようです。

また、小中高ともに初年が大事なので、「一年生になったらこれを読め」といった入学生向けの本を用意する取組みや、本にまつわる巨大迷路を作った学校もあるようです。

実際に私が行った、生徒に好きな本の中の一部を書き出して掲示するという取組みでは、掲示された当人も喜ぶますが、それを見て読んでみようかな、という関心を示す生徒もいたようです。

早川委員：石狩市民図書館にはいろいろなスペースがあるので、子どもたちが集まるスペースに積極的に子育てサークルなどに貸出しをして、その方に読み聞かせをしてもらったりしたら、保護者も図書館に来る習慣に結び付くのではないのでしょうか。

木村委員：図書館から「発達段階に応じた取組み」に関する支援などの話がありましたが、読書世論調査の2019年版によると、小学生は読書をするという子が多いが、中高生になると少なくなっているという結果を見ました。また、その中には「学校の先生などから紹介された本を読みたいと思うか」という調査があり、6～7割は「読みたくない」と回答しているという

データでした。中高生の感性は多種多様で、本を紹介してもらっただけでは読書につながらないのではないかという感想を持ちました。

私は数年前から読書プログラムを開発中なのですが、特長としては本を紹介するのではなく、いかに本に出会わせるかを考え、学生に選書させてグループで紹介し、友だちの考えを聞いて感想の相違を共有する。それが読書の一つのきっかけになるのではないかというものです。参考までに紹介いたしました。

早川委員：本を探す時には自分の好きな本ばかり選んでしまうので、その時の気分に応じて本を選んでくれるスマートフォンのアプリ診断システムのようなものがあっても面白いと思いました。

青木会長：様々なご意見をいただき、整理するのも大変かと思いますが、この場だけでなく、思い付いたときに図書館に提案いただく中で原案の作成につないでいくことができると思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

次に、【報告事項】（１）図書館運営に対する市民からの要望について、図書館から説明をお願いします。

東館長：（１）図書館運営に対する市民からの要望について

前回の協議会において、市民からの要望について要望書の写しを各委員にお渡しし、概要について説明をさせていただきました。会長はじめ委員の皆様からは、様々な角度からのご意見を率直に伺いました。

今回は、報告ということで本日お渡しをさせていただくデータについて説明申し上げます。

（資料３－１）は、利用者の予約状況とキャンセルの実態を把握するため抽出しまとめたもので、条件は2018年4月1日から本年の6月25日までの状況になります。

市民からの要望書におきましては、「利用者カードのホルダーはその半数が市外者であるが、ネット利用者も同率とは限らず精査を要する。」、「予約申込者の予約流しの実態把握が求められる。」という二点の追加調査確認がありました。

（資料３－１） 予約・キャンセル状況をご覧ください。

利用者の方の予約状況とキャンセルの状況をデータ集計したものです。表の上段に方法を記載しており、所蔵・未所蔵・OPACまでが、図書館で直接予約をされたものになります。W

ＥＢはインターネットを利用したもの、携帯専用はスマートフォンを含む携帯端末によるものです。

予約数の総合計は 96,799 件、キャンセル数は 8,235 件、キャンセルの割合は 8.51 パーセントになります。データの対象人数は 1,229 人ですので、8,235 件を対象人数で割ると、一人当たり 6.7 件という数字になります。

ここで、要望者の方からの質問、一点目「利用者カードのホルダーはその半数が市外者であるが、ネット利用者も同率とは限らず、精査を要する。」について触れたいと思います。

ＷＥＢ（インターネット環境）欄における市内と市外の予約とキャンセルをご覧ください。

市内の予約数は 28,993 件、札幌を含む市外の予約は 29,701 件であり、若干市外が多い数字になっております。これに対するキャンセル数は、市内：1,296 件、市外：4,892 件と、市外が約四倍です。要望者の懸念される、市外の利用者が相当数予約とキャンセルを安易に行っているのではないかとのご指摘ですが、図書館での予約（所蔵・未所蔵・ＯＰＡＣ）の合計よりもＷＥＢ・携帯の件数が非常に多い実態を見ますと、確かに自宅でパソコンを開いて予約ができますので気楽にという語弊がありますが、簡単な作業になるということかと思います。

二点目「予約申込者の予約流しの実態把握が求められる。」

予約流しについてですが、この実態把握は非常に難しいと思います。予約とキャンセルを安易に行っているということを、外形的に判断しづらいからです。

仮に、ＷＥＢで安易に沢山予約をして、安易にキャンセルをされることや、沢山予約をして、沢山キャンセルすることを予約流しとした視点でこの表を見てみますと、予約としては、あくまでも平均値としてですが、（予約合計）96,799 件を（対象人数）1,229 件で割ると、冊数は一人当たり約 80 冊、週平均（抽出期間 64 週）では 1.25 冊予約されていることになります。

そして、キャンセル数の平均は一人当たり 6.7 件（全期間：451 日間・対象人数 1,229/合計 8,235 件）ですので、数字としては高くないのではないかと思います。

要望者の方の確認事項として、やはり最も懸念されることが安易なキャンセルであろうと思います。キャンセル件数は一人当たり 7 件弱ということになりますので、実態はそう悪い状況にはないと思います。

先ほどのＷＥＢでの市内のキャンセルは 4.47 パーセント、市外でも 16.47 パーセントですから、多数予約し、多数キャンセルという場合は、市外の 16.47 パーセントでさえ 5 分の 1 以下ですので、安易なキャンセルが多数存在するということは端的には言えないのではないかと思います。

前回の石狩市民図書館協議会の中の意見で、市民図書館なのだから市民に特典があっても良いのではないかという意見をいただきました。この点につきましては、大いに私どものPR不足を反省しなければならないものと思います。

石狩市民限定の図書館サービスとしては、まず他の公立図書館や大学図書館からの本を借りられる相互貸借というサービスがあります。これは、当館が蔵書していない資料を、道内外の図書館のネットワークを使い、希望の本を取り寄せて利用者に貸出すというサービスです。北海道立図書館や札幌市立図書館など蔵書数が非常に多い図書館には大変お世話になっております。また団体の活動に必要な資料を、月単位で貸出す団体貸出サービス、そして、市内にキャンパスのある藤女子大学図書館の資料につきましても、石狩市民であれば相互利用が可能です。このように、多いとは言えませんが石狩市民限定のサービスもございます。この点につきましては、今後PRについて考えなくてはならないと思います。

(資料3-2)管内市立図書館における、いわゆる人気本と言われるベストセラー本16冊の蔵書冊数・予約件数をまとめた表になります。(各市HPより、令和元年8月9日現在)

書名、著者名、北広島市、恵庭市、江別市、千歳市、本市の5市における蔵書冊数、予約件数となります。

最上段「そしてボタンは渡された」(瀬尾まいこ著)では、北広島市蔵書6冊、恵庭市3冊、江別市7冊、千歳市5冊、本市は2冊になります。同様に、各市ばらつきはありますが、ほとんどが本市よりも蔵書冊数が多くなっております。

石狩市民図書館では、複本に関する規定を設けており、予約が50人を超えた時点で追加の一冊を購入することとしております。これは、限られた予算を有効に使うため、数年経つとブームが去る人気本を多く集めるようなことはできるだけ避けたいと考えるからです。

このことが要望者の方が感じておられる状態に影響を及ぼしていることも考えられます。

今回は、当館の予約・キャンセルの状況について説明を申し上げました。次回3回目には会長からの方向性についての結論をいただけるよう準備を進めたいと思います。

青木会長：資料を見ると、石狩市民図書館では人気本に平均して予約が入っていますが他市では予約件数がゼロの本もあります。この先ブームが去った後を考えると、蔵書冊数が多いのは無駄な出費のようにも感じますが、その点では、事情もありますが石狩市民図書館の規定も納得できるものと思いました。

その他の点について、ご質問等はございませんか。

それでは以上で議事案件は終了となりますが、全体を通して何かありますか。

木村委員：学校連携についてですが、おはなし会などを行っているという話がありましたが、蘭越では、小学校の各学年に対し図書館司書が月一回出向き、イベント型ではなく授業の単元に合わせた内容で図書館が係わっているようです。そういう計画や予定はあるのでしょうか。

岩城主査：学校司書を配置、派遣していなかった数年前のことになりますが、学校からの要望により、授業の中でブックトークを行ったことがあります。現在は全小学校に学校司書が配置、派遣されておりますので、各学校司書が学校の実情に応じた内容で読書推進に係る取組みを行っております。

木村委員：では、そういった活動をしているという内容は、このビジョンの中には該当しないということになりますか。

岩城主査：現在も、春や秋の読書週間時期に、学校司書や図書館司書で連携を取りながら中休みを活用しておはなし会などを行っています。これは、毎月定例で実施している学校司書連絡会議の際に、各学校司書がおはなし会の予定や計画について協力を呼びかけ、都合の合う数人が集まり、お互いの学校で読み聞かせなどの活動を続けています。

木村委員：そのような活動をされているのであれば、記載があっても良いのではないかと思います。確認させていただきました。

鈴木主任：今回の資料のほかに、《図書館要覧2019》を机上に置かせていただきました。内容は昨年度の図書館協議会にてご説明、ご報告申し上げておりますので、細部につきましてはお目通しいただきますようお願いいたします。

青木会長：それでは、次回の協議会について図書館からお願いします。

岩城主査：第3回石狩市民図書館協議会は年明け2月の開催を予定しております。近くなりましたら委員の皆さまに開催日程の調整をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

青木会長：以上をもちまして、令和元年度第2回石狩市民図書館協議会を終了いたします。
本日はどうもありがとうございました。

会議録署名委員

令和元年 9 月 19 日

会長 青木 貞康